沖縄キリスト教学院　2006年度　前期　公開講座募集要項

講座名(講師名)	内　　容	開設予定日/時間	対象(定員)
カウンセリング入門 （渡久地 政願）	カウンセリングに興味はあるが、これまで全く勉強した事のない人、また、これまでかなりの研修も受け、実践歴もあるがもう一度、原点に戻って再学習したいと考えている人の為の理論を中心とした内容である。	4/21～6/30(8 回) 毎週 金 曜日 19:00-21:00	一般社会人 （50 人）
アラビア語入門 (イブラヒム･エルサムニー 島袋　忠雄）	アリフ・バーター（アルファベット）の読み、書きから初歩的な会話まで。また、アラブ文化にも触れる。	4/21～7/14(10 回) 毎週 金 曜日 19:00-20:30	一般社会人 学生 （20 人）
ハングル初級 （金　永秀）	ハングル文字の読み方、書き方から簡単な会話と文法を学びます。講座の中で、韓国の風俗や歌も紹介します。	4/17～6/26(10 回) 毎週 月 曜日 19:00-20:30	一般社会人 学生 （18 人）
メディアの発達と コミュニケーション技術 （山川　あつ子）	TV・ラジオ・新聞など従来のマスメディアに加え、インターネットや携帯電話等々の普及に伴い、私達の日常生活は情報メディアで一杯です。メディア環境の変化は、人間関係をも変化させ、コミュニケーションやビジネスに影響を与えています。①メディアの介在によって人間関係はどのような特徴を示しているか　②コミュニケーションとは何か　③コミュニケーション技術・自己表現について一成功事例を示し学習します。	4/18～6/27(10 回) 毎週 火 曜日 19:00-20:30	一般社会人 学生 （25 人）
沖縄の長寿と健康 -Okinawan Longevity and Wellness- （糸数　デビット Lyle E. Allison）	沖縄のパワーソフトといえば健康長寿。長寿沖縄の平均寿命は、女性こそ第１位を維持していますが、男性は平成12年には26位まで落ちショック26と言われています。本当に沖縄の長寿は危ういのか？他府県はどうなのか？長寿と健康をテーマに世界に向けて健康モデルとしての沖縄について英語・日本語を交えて学び合います。（9割、英語での授業になります。）	4/17～6/26(10 回) 毎週 月 曜日 19:00-20:30	一般社会人 学生 （20 人）
沖縄メロディーによる 言葉遊び （Samuel Andrew Meyerhoff）	この講座では、「安里屋ユンタ」、「ティンサグの花」、「島唄」などの沖縄メロディーを通して英語を学び、また紙芝居を作ったり、作曲をしたりすることも計画しています。（曲名は変わることもありえます。）	4/18～6/27(10 回) 毎週 火 曜日 19:00-20:30	一般社会人 （15 人）
初級スペイン語会話 （又吉　パトリシア　イネス）	この講座では主に初めてスペイン語を学ぶ受講生のため、役に立った会話を習得することを目的とし、また歌やビデオ教材等を使って、スペイン語圏の世界を紹介する。そして、今年の10月に開催する第４回世界のウチナーンチュ大会に多くの中南米出身の日系人と交流できることを目標にする。	4/21～7/14(10 回) 毎週 金 曜日 19:00-20:30	一般社会人 学生 （15 人）
新約聖書ギリシャ語Ⅰ （神山　繁實）	紀元前4世紀から紀元5世紀にわたって、地中海世界で征服者ローマ帝国の言語ラテン語よりも広範囲にわたった世界共通語としてのコイネー・ギリシャ語（聖書ギリシャ語）を入門・初歩より学ぶ。新約聖書は、紀元後１世紀から２世紀にかけてギリシャ語執筆された。古代の文献は、ギリシャ語で執筆されたものが多く、ラテン語と並んで後のヨーロッパ系言語の母体となった。この言語を学ぶことは有益である。	4/17～8/7(15 回) 毎週 月 曜日 19:00-20:30	一般社会人 学生 （15 人）
朗読ワークショップ （上原　明子）	朗読による身体表現を楽しむワークショップ　*動きやすい服装で テーマ１：深い呼吸に支えられた深い声 テーマ２：美しいリズムと声の響き テーマ３：群読（朗読の一形態） テーマ４：パフォーマンス	4/17～6/26(10 回) 毎週 月 曜日 19:00-20:30	一般社会人 学生 （20 人）

受付期間　3/20(月)～4/14(金)
電話番号　098－946－1240

沖縄キリスト教学院創立50周年記念

「大井 學　テノールリサイタル」開催

沖縄キリスト教学院創立50周年記念事業の一環として、本短期大学卒業生の「大井 學　テノールリサイタル」が2006年1月15日（日）午後5時から７時まで、本学チャペルにて行われました。

1957年４月に沖縄キリスト教学院が創設されまもなく迎える創立50周年を祝うとともに、今後の発展を記念しリサイタルが開催されました。

会場の仲里朝章記念チャペルには、225名の音楽ファンが来場し、音楽の夕べを楽しみました。

編集後記

今年もきれいな桜が咲きました。春の訪れは人をワクワクさせます。
この春、これまでの国際交流室が「国際平和文化交流センター」へ生まれ変わるというニュースに、また心躍ります。
厳しい時代だからこそ“人”の時代。今回快く原稿を書いてくださった方々の文章に触れ、卒業生の活躍を知り、ますますそう感じた新米編集者でした。（M）

沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学

学報 第52号

2006年3月10日発行
沖縄県西原町字翁長777
☎(098)946-1231 FAX(098)946-1241
編集・発行
沖縄キリスト教学院学報委員会
URL http://www.ocjc.ac.jp/

クリスマス礼拝　2005年12月22日（仲里朝章記念チャペル）

記事内容

★理事長挨拶……理事長　大城　進一… 2
★学長メッセージ……学　長　神山　繁實… 2
★大学間競争と大学評価に耐える特色ある大学を目指して
常務理事　仲門勇市 … 3～4
★退職される先生 …… 4
★新任教員紹介 …… 5
★特集　国際交流室 …… 6～7
★キャンパスニュース
英語コミュニケーション学科 …… 8
英語科 …… 9
保育科 ……10～11
キリ学祭開催 ……12
NPO「ONE LOVE」紹介 ……12
ノートテイク講座開催 ……12
オープンキャンパス開催 ……13
キャンパスライフ（学生紹介） ……13
宗教部 ……14
就職課 ……15
★同窓会便り/卒業生紹介 ……16～17
★特色ある教育研究の取組み ……18
★西原町が支援　多機能の同時通訳機器導入 ……18
★高校生インターンシップ受入 ……18
★人事一覧 ……18
★寄付金報告 ……19
★決算報告 ……19
★公開講座紹介 ……20
★大井學テノールリサイタル
（沖縄キリスト教学院創立50周年記念） ……20

「三たび理事長に選任されて！
—大学の充実発展は当事者意識の共有から—」

学校法人沖縄キリスト教学院
理事長　大城　進一

Happy New Year! May this year be happy and fruitful.

去年の忘年会を「忘年の年」ではなく、「望年の年」にしようではないか、と決意を新たにしましたが、その望みのある年にするためには、多くの課題を一つ一つ着実に解決していく絶えまざる努力が必要です。三期目も理事長に選任されましたが、この機会に大項目に限って歩んできた過去を振り返ってみたいと思います。先ず、理事就任を承諾する前に沖縄キリスト教学院が創設された経緯と理由と財務状況を調べましたが、経営資源が乏しく、それ相応の経営努力が求められるものと思いました。以来、そのような状況の中で、学内のみんなで力を合わせて内部努力に努め、また、同窓会、後援会、学外の支援もいただき今日に至っております。さて、私が選任されたのは、西原町出身であること、多年に亘る行政経験（人脈）と歴史体験をしてきたこと、NPO法人西原町人つくり支援の会の理事長であることが大きな要因であったと理解しています。一期目に手掛けたことは、具志川市（現うるま市）への大学新設を変更し、現キャンパスで四年制大学を新設する方針を理事会に諮り進めてきました。二期目もこの大学新設を継続事業として推進し、学長を中心にした教学関係の準備作業、大城、新川両氏の事務局長を中心にした財務関係等の事務的な実現可能体制を整え、四年制大学が日の目をみることができました。

さて、三期目には、保育学科の四年制化がありますが、これを実現するためには、先の四大創設準備作業の歴史（経緯）を教訓にして取り組む決意と覚悟（ヤル気）が強く求められるものと思います。

現状は、少子化等の影響に加え、大学間競争の激化、第三者評価制度の導入、厳しい大学経営環境の中に置かれていますが、教職員が「一人一役、みんなが主役」という当事者意識を共有すれば、「第二の夢」が実現可能になることと思います。

その結果、「望まれる大学、選ばれる大学、特色ある大学」にすることによって教育界の注目と関心と期待が寄せられ、沖縄キリスト教学院の充実と発展をみることができるものと確信いたします。「祈りつつ各自の役割」を担おうではありませんか。

「沖縄キリスト教学院の新たな進展を目指して」

沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学
学長　神山　繁實

現在は、教育、社会、政治、経済のあらゆる分野で変革を求められている時代であります。1991年に大学設置基準の大綱化が実施され、2004年には大学の自己点検・評価及び第三者評価が義務づけられることになりました。自己点検・評価の目指すところは、建学の精神に沿って特色ある教育を推進し、国際的に通用する教育の品質を保証することにあります。

短期大学は、創設以来、県内・県外・国外で活躍する1万人を超える卒業生を送り出してきました。「英語のキリ短」「保育ならキリ短」と言うように、一定の社会的評価を得てきたのは、個々人の努力と保護者の皆様をはじめ教職員のサポートの賜物によると感謝しているところです。

近年、国際交流の時代の進展と共に、若者の外国志向が高くなってきました。これまでの短大の国際交流をさらに発展させる形で、四年制大学では、英語コミュニケーション学科のジュニアー・イヤー・アブロード制度を設けて、3年次には外国で学ぶよう奨励していますが、そのような制度に対応して、大学側は、様々な形の外国留学の道を準備しました。例えば短期・長期の語学留学、正規の単位を修得するための留学、海外研修、インターンシップ等のために提携校を確保しました。外国大学との提携は、四年制大学だけではなく、短期大学もこれらのプログラムに乗れるように、短大・四大の区別無く、沖縄キリスト教学院として進めることになります。これまで短大と提携してきた2カ国8大学と新規開拓した5カ国9大学で合計6カ国17大学と提携することになりました。この他、ヨーロッパやアフリカにも候補大学がありますが、徐々に提携校を増やしていくことになると思います。この1年は、異文化交流の促進が強力に推進される年になることは間違いありません。

異なる歴史や文化を持つ人々との出会いが、平和を造り出す幅ひろい国際貢献に繋がると確信しています。それが本学院の教育方針であり、使命であります。本学の教育活動が、沖縄から平和のメッセージを伝えていく発信基地になるよう願わずにはおれません。

大学間競争と大学評価に耐える特色ある大学を目指して
—建学の精神を生かした教育研究の活性化を求めて—

学校法人沖縄キリスト教学院
常務理事　仲門　勇市

今、私立大学を取り巻く環境は、非常に厳しい状況にある。特に少子化、高齢化、情報化等の急激な変化に伴い社会のニーズにどう対応すべきか。また、大学の使命・役割を発揮するためには、社会に対してどう対応すべきか、何をすべきか、何ができるのか。今、まさにその真価が問われている。

本来、大学の使命・役割は、教育研究及び社会貢献を果たすべく国際社会及び地域社会に貢献する有為な人材を育成する役割を担っている。そしてその教育研究の活性化と成果がさらに要求されている。

本学は、1957年４月太平洋戦争により灰尽と化した首里教会の一角にキリスト教の精神に基づく人類の福祉発展に寄与する人材の育成を目指して設立された。

今年創立49年目を迎えるが、その間大学関係者のご尽力により西原町への移転並びに沖縄キリスト教学院大学及び人文学部英語コミュニケーション学科の創設、短期大学の英語科、保育科、総合教育系の充実整備に努め、学生総数850名、教職員70名、卒業者11,000名を擁する大学に発展した。

本学の更なる充実発展を期するためには社会から「大学の質」の高い大学として保証されることが求められ、その保証を確実なものにするためにはまず、本学の教育研究及び管理運営等に関する自己点検評価を実施し、そして他大学との相互評価を行い、さらに（財）短期大学基準協会または（財）日本私立大学協会高等教育機構による大学認証評価を受けることが最優先課題として当面、本学に課された使命である。

そこで、次のとおり本学の課題及び提言を提案したいので職員の協力をお願いしたい。

（１）学年進行中の人文学部の教育等を充実させ順調に第一期生を送り出すために全学的な協力体制のもとで教育内容の充実、完全就職・進学等の達成を図る。

（２）その教育内容を充実させるために「四大設置の基本方針」を再確認し、「教育の国際交流事業」等を積極的に推進する。

（３）短期大学保育科の四年制学部の設置計画について速やかに文部科学省及び厚生労働省等との協議調整を行い設置推進を図る。

（４）人文学部の積み上げ方式による大学院研究科修士課程の設置について推進を図る。

（５）創立50周年記念事業の推進について、推進本部会議のもとに実施計画を早急に策定して記念事業計画を推進する。

（６）大学の健全な財政を維持し、大学を経営するためには財源の確保は最重点課題であり、財源の主なる歳入である学生授業料等を確保するためまたは大学を維持するためには入学定員を絶対割ることのないよう総力を挙げて取り組む（入口の絶対確保）。

（７）現在卒業者数は、11,000人に達し、社会のあらゆる分野で中堅・幹部リーダーとして活躍しており社会から評価を受けている。この実績を踏まえ就職率及び進学率の向上を図るために総力を挙げて取り組む（出口の絶対確保）。

（８）今、大学では「認証評価」ということばが流行しているほど各大学では、自己点検評価、大学間の相互評価及び認証評価を受けるための体制を確立してその実施に当たる。

（９）教育研究の活性化を推進するため、学術の国際交流事業は欠かせない事業であり、本学にとっては今、人文学部及び短期大学の教育内容の充実強化を図る上でも学術の国際交流を積極的に推進する必要がある。また外国人留学生を受入れるためにも特に日本語教育、授業料免除、奨学金及び宿舎の確保等緊急な対応が必要である。

（10）生涯学習社会へ対応及びその支援策並びに地域社会との連携を図るため本学は、今、何ができるか（例：子育て支援、親子の居場所支援、

コミュニティスクール支援、団塊の世代の退職者の受入れ及び再教育等の実施並びに沖縄県、西原町への助言等現行の公開講座等の改善を図り、生涯学習及び地域社会との連携に関する基本方針を策定し、その推進機関として新たに「生涯学習・地域連携センター」（仮称）を設置してその推進を積極的に図る。

（11）教育研究の活性化を図るため早期に教員の教育研究業績等（プロフィール、研究テーマ等）をとりまとめた研究者一覧（仮称）を策定して社会に公開・公表し、社会との連携を図ること。

（12）教育研究体制の環境の整備を図るため現キャンパスの再開発を含めて総合的に見直しを行い、教室、教員室及び学生福利厚生施設等の確保のため早急に整備計画を策定して対応する。

（13）本学の中・長期計画（マスタープラン・例：10年・30年計画等）を早急に策定して本学の「将来像」について協議する。

（14）本学の財政基盤の中・長期計画の確立及び大学経営方針を明確にするため「大学財政基盤10年計画及び大学経営方針」を策定し、速やかに対応する。

（15）本学を支援するため地元西原町役場、西原町商工会、西原町通り会等並びに同窓会、後援会、地域住民の協力による「沖縄キリスト教学院人材育成協力会」（仮称）を早急に立ち上げ支援体制を確立する。

以上、課題と提言について提案したが、これを実効あるものにするためにはまず、自己研鑽、自己改革、自助努力及び情報の共有等が特に求められる。そして自らの手であらゆるサイドからレベルアップを図り特色ある大学をつくることによって他大学との競争と大学評価に打ち克つことができると確信している。

最後に、学生が「本学で学んでよかった」と思われるように、さらに「建学の精神を活かした教育研究による大学づくりをし、世界に羽ばたく沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学を目指して」を達成することができることを確信して職員の協力に期待したい。

退職される先生

「本学を去るにあたって」

英語科　島袋　忠雄　教授

出身：上智大学大学院修士課程
学位：修士（文学）
専門：英文学

学生会から“卒業パーティーへの勧誘”が届いた。ふた月ほど先のことだと思っていても不思議にもその日は駆け足でやって来るものだ。暦を川に例えると、最もくびれている２月の部分で水たちが我先にと流れ下り、急流をなしたまま３月の淵になだれ込むからだろう。

この時期に頭に浮かぶ詩がある。フランスの作家、ギョーム・アポリネールの「ミラボー橋」だ。詩人がセーヌ川の岸にたたずんで河水を見つめている時に想を得たものと思われる。わずか４つのスタンザ（節）の中に、

夜よ来い、時鐘（とき）よ打て
日々は去り行き私は残る

の２行が４度くり返される。

本学着任以来、幾度、この時期にこの詩を思い出したことだろう。しかし、ついに“去り行く者は我が身なりけり”の時来たる。「いずこへ去りたまうや？」と問われたとしても、「いずこともなくまどうここちし給う」（源氏物語）としか今のところ答えようがない。

ただ、残るものに幸多かれと祈るのみ。

新任教員紹介

沖縄キリスト教学院大学
人文学部　英語コミュニケーション学科

高崎　正名

職位：教授
出身：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修士課程
学位：ＭＢＡ、修士（国際経営学）
専門：国際経営学

「皆さんに期待しています」

私は、2005年10月1日本学院に赴任しました。

沖縄での生活は初めての経験です。日々、未知との出会いも多く、数々の知的刺激を受けています。

私と沖縄とのかかわりは、2000年6月、名護市が主催した「沖縄・国際情報センターシンポジウム」にパネリストの一人として参加したことから始まりました。

ご存知の通り、現在、ヒト・モノ・カネ・情報は国境を越えて飛び交っています。金融市場のグローバリゼーションや電子商取引の進展により、企業のグローバル化も加速度的に進んでいます。そして、沖縄金融特区のプロジェクトをはじめ、世界の舞台は、こうした激しい変化に迅速、かつ柔軟に対応していける若い力を求めています。

皆さん、持っている英語能力に加えて多くのことを学び、世界を舞台に活躍できる「ビジネス力」を培って行きましょう。

沖縄キリスト教学院大学
人文学部　英語コミュニケーション学科

「Culture, Kimchi, Understanding」

Daniel S. Broudy

As a young college student, I studied the fine art of painting and sculpture. I liked oils, and I really liked working in cast aluminum. I later changed my major study to English composition and also studied composition and rhetoric in graduate school. My doctoral work is in applied psycholinguistics. I'm interested in the relationships among cultures, symbols, and the ways in which humans perceive meanings. I think that cross-cultural understanding is tied to greater awareness of the symbols and meanings people communicate, negotiate and value. I have been able to live out peace and understanding through this kind of awareness in my own life with a wife born and raised in a completely different culture than my own. Fresh kimchi has opened a whole new world of discourse for me.

大学生の頃、絵と彫刻を勉強しました。油絵が好きで、鋳造アルミニウムも大好きでした。その後専攻を英作文に変更し、大学院では作文と修辞学を専攻しました。博士課程の研究は応用心理言語学の分野です。文化や象徴同士の関係や、人が意味をどのように認識するのかに興味があります。異文化理解は、人が伝達・交渉・評価する象徴や意味をより深く意識することと関連づけられると思います。私自身、全く異なる文化で生まれ育った妻との生活において、こうした意識を通し、やすらぎと理解のうちに暮らしてきました。新鮮なキムチが、私に全く新しい会話の世界を開いてくれたのです。

職位：助教授
出身：ノーウィッチ大学
学位：修士（英文学）
専門：応用言語学、修辞学（rhetoric）

沖縄キリスト教短期大学
英語科

「大好きな沖縄に」

作田　真由子

職位：教授
出身：京都大学
学位：修士（文学）
専門：英文学

「先生、いつもニコニコしていますね。」と学生さんによく言われます。それもそのはず、沖縄に住めて、しかも仕事（授業）も楽しいので、ついニコニコしてしまいます。

私は京都生まれの京都育ち、隣県の大阪府の大学に22年半勤めていましたが、昨年沖縄に移住してきてしまいました！沖縄は何と言っても、人の心の純粋さと温かさがいいですね。

専門はイギリス文学、特にシェイクスピアの演劇ですが、英語そのものを教えるのも好きです。英語科の学生さんたちには、英語を通じて視野を広げ、人間や社会について深い理解力を養ってほしいと思っています。そしてそのために、私も及ばずながら、出来るだけ良い授業をすることでお手伝いをしようと考えています。同僚の先生方、職員の方々、学生の皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

特集

国際交流室

「平和をつくりだす者」の育成のために

－これからの国際交流プログラムが目指すもの－

国際交流室長
新垣　誠（英語コミュニケーション学科助教授）

2006年、国際交流室が国際平和文化交流センターへと生まれ変わります。本学の学術・国際交流の推進における画期的な組織の改編となります。これまでの海外研修プログラムや留学生との交流プログラムに加えて、4年制大学設立に伴う姉妹校の拡大や、カリキュラムに沿った新しいタイプのプログラム開発が急ピッチで進んでいます。例えば、台湾の長栄大学との平和構築をテーマにした交流プログラムや、国際貢献に重点を置いたフィリピンでの研修が新たに始動する予定です。

新しいセンターは1999年ハーグ世界平和市民会議の「今こそ平和の文化をつくりだそう」という国際的な決意と、「沖縄から世界に平和を発信しよう」という本学の建学の精神に根ざしたプログラムを展開します。21世紀へ向けた国際社会の平和への熱い思いと、50年間温め続けてきた本学の建学の精神がひとつとなり、平和をつくりだす人材が世界へと羽ばたいていく　―　その橋渡しをするのが新しいセンターの役割です。

本学の国際交流事業

1．留学

2005年度	学院大学	短期大学
派遣留学生数	2人	6人
留学期間	4ヵ月～1年	
留学先	カナダ（カルガリー） アメリカ（ワシントン州）	カナダ（バンクーバー） アメリカ（イリノイ州、ハワイ州） オーストラリア（メルボルン） ニュージーランド（クライストチャーチ）

過去3年間の留学先（2002～2004年度）

国名	都市名	人数
カナダ	カルガリー、バンクーバー、トロント、ビクトリア	13人
アメリカ	カリフォルニア州、オレゴン州、ワシントン州、ロードアイランド州、ネブラスカ州	9人
オーストラリア	パース、メルボルン、クイーンズランド、シドニー	7人
ニュージーランド	オークランド、クライストチャーチ、ネイピア	7人
イギリス	ロンドン	1人

留学先で受講したクラスの内容と時間数に応じて、本学の単位として認定することができます。

2．姉妹校（国際交流協定書締結校）

	学校名	国名
1	Northwestern College	アメリカ
2	Hawaii Community Colleges（7校）	〃
3	Michigan State University	〃
4	University of Philippines	フィリピン
5	Hawaii Pacific University	アメリカ
6	The Philippine Women's University	フィリピン
7	Ateneo de Manila University	〃

3．海外研修プログラムについて

1993年度発足。英語コミュニケーション学科・英語科「海外研修」、保育科「海外幼児教育研修」として開設（2単位）。参加学生数はそれぞれ平均20人前後。海外研修奨励奨学制度もある。

MSU研修プログラム

Michigan State University（米国ミシガン州立大学）にて前期（9月）実施。幼児教育施設や社会福祉施設などでの実習を通して、主に保育の理論を学ぶ。

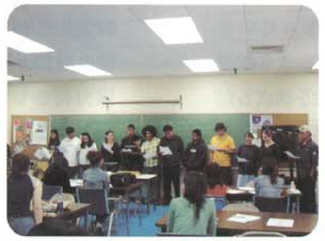
今年度は2005年8月30日～9月22日（24日間）実施。参加学生19人。

MSU研修風景

Hawaii Study Tour

Kauai Community Collegeにて後期（2月）実施。幼児教育施設での参加実習や、移民の歴史や多文化共生社会について学習する。

今年度は2006年2月11日～3月5日（23日間）実施。参加学生16人。



Hawaii Study Tour研修風景

4．2005年度留学生受入状況

	学年	出身国	人数
沖縄キリスト教学院大学	1年	インドネシア	2人
	2年	インドネシア	4人
		中国	2人
		合計	8人

新入留学生歓迎会

沖縄歴史文化学習ツアー

	学年	出身国	人数
沖縄キリスト教短期大学	1年	インドネシア	1人
	2年	中国	5人
		韓国	1人
		合計	7人

ビーチパーティー

沖縄地域留学生親善交流会

沖縄キリスト教学院大学
人文学部　英語コミュニケーション学科

「国際交流」：カリキュラムと留学プログラム

英語コミュニケーション学科長
仲地　弘善　教授

国際交流は、沖縄キリスト教学院大学英語コミュニケーション学科が提供するカリキュラムの重要な履修プログラムの一つであります。本学科の教育目標である「有能で分別ある異文化コミュニケーター」を育成するために、カリキュラムの面で特に集中して学習する履修プログラムが示されており、国際交流履修プログラムはその中核的役割を担っています。したがって、留学プログラムを整備・充実させることは、カリキュラムの上でも重要であり、学生が海外に留学したり海外で研修を受けたりするための便宜を図って、一人でも多くの学生が海外留学の恩恵を受けることができるように、本学科と国際交流室が一体となって委員会を構成し、提携・協力校との協定締結を推進しているところです。

カリキュラムの面では、国際交流履修プログラムは他の二つのプログラム（インターナショナル・サービスとインターナショナル・ビジネス）を充実させる重要な役割を担っていますが、これら三つの履修プログラムは個々に独立して編成されているわけではなく、互いに連携を保ちつつ、関連しあっています。例えば、インターナショナル・サービス科目群の「海外ボランティア実習」やインターナショナル・ビジネス科目群の「インターンシップ」などの授業科目は、海外での実習や研修プログラムが組まれますが、その場合、選択必修で履修する「コミュニケーションの技法」や「文化・異文化理解」などの授業科目は、国際交流履修プログラムだけでなく他の二つの履修プログラムにおいても重要な基礎科目となり、海外での実習や研修に役立つ基礎科目となるのです。

沖縄キリスト教学院大学は、海外での実習や研修を充実させるために、2006年３月から2008年３月までにアメリカに９校、中国に２校、台湾に１校、韓国に１校、フィリッピンに３校、エジプトに１校合計17大学及びコミュニティ・カレッジと提携・協力校としての協定を締結するよう準備を進めています。学生は在学中、特に３年次にジュニア・イヤー・アブロードのプログラムとしてこれらの提携校あるいは協力校に長期留学または短期留学をしてそこで履修した単位を本学で認定することが可能になるし、海外での実習や研修の便宜も図られることになります。

「県内私大単位互換協定」締結

沖縄キリスト教学院大学（2004年４月設立）は、県内私立五大学（沖縄大学・沖縄国際大学・名桜大学・沖縄女子短期大学・沖縄キリスト教短期大学）と、2005年9月「県内私大単位互換協定」を締結しました。

※本短期大学は1995年締結

これにより、希望する本学生は協定大学の授業科目を履修し、単位を修得することが認められます。各大学の特色ある科目を提供しあうことで学生の多様なニーズに応える機会が増えると共に、協定校の学生が本学の授業を受講することも可能となります。

沖縄キリスト教短期大学
英語科

「新カリキュラム導入後初の卒業生を世に送り出します」

英語科長
城間　仙子　講師

2004年の沖縄キリスト教学院大学の設置に伴い、同年、短期大学英語科の入学定員変更（250名から100名へ）と専門科目におけるカリキュラムの大幅な改定が行われました。その中でも最大の目玉は、「オーラル･イングリッシュの更なる強化」です。「使える英語」は、これまでもキリ短の英語教育の特徴として定評を得てきました。教員・学生間の距離が近く、「親近感」漂うキャンパス・ライフの中で、「使える英語」の習得をさらにレベルアップさせるべく、またより充実した英語のイマージョン環境の提供を目指して、従来は週４時間（コマ）だった必修科目のオーラルイングリッシュを週８時間（コマ）と２倍に増加させたのです。学生は、入学から卒業まで継続して週８時間のオーラル･イングリッシュ科目を履修することになりました。

さて、今年度は2004年4月に入学した48期生が卒業する年度であり、初めて上記の新カリキュラムの下で学んできた学生たちを社会へ、あるいは更なる進学へと世に送り出す年度となりました。入学当初はオーラル･イングリッシュの時間の多さに戸惑いを隠しきれない様子の学生もいくらか見られましたが、その表情が「生きた英語に触れる楽しさ」をエンジョイするものに変わるまでにはさほどの期間を要さなかったようです。これはインテンシブな新カリキュラムと先に述べた本学の「親近感」とが上手く調和し、学生に英語に浸る環境が提供できた結果だと考えています。

卒業生の皆さんへ：パワーアップしたカリキュラムの下で培ったコミュニケーション能力をフルに活かして、地域社会・国際社会に貢献できる人物となることを期待しています！

「第25回学内英語弁論大会」開催

沖縄キリスト教短期大学・沖縄キリスト教学院大学共催による、第25回学内英語弁論大会が2006年1月21日本学チャペルにて開かれました。「Invisible link between North Korea and South Korea」と題してスピーチした英語科２年次の金成勲さんが優勝しました。２位には英語科２年次の李清英さん（題「Success」）が、３位には英語コミュニケーション学科１年次の屋宜大仁さん（題「Garbage Problem」）がそれぞれ入賞しました。

大会には学内から５人が参加。参加者は日頃学んでいることを活かし、４～６分間程度のスピーチの中で、その内容や英語の発音力、Body Languageなどを競い合いました。

参加者全員に英英辞典、優勝者には賞状や奨学金３万円が授与されました。

写真左より
2位 李清英さん、1位 金成勲さん、3位 屋宜大仁さん

キャンパスニュース

沖縄キリスト教短期大学
保育科

現役スーパー保育士「まあせんせい」と保育科との出会い

保育科
喜友名　静子　教授

「まあせんせい」こと菊地政隆氏との出会いが始まったのは、2004年10月11日。沖縄にお出でになるという情報をキャッチ。超多忙な先生は骨休めの来沖にも関わらず快諾して下さった。当日は私たちのために、吉澤隆幸氏、大滝昇氏も同行され、東京から持参した本格的なオーディオセットのミュージックの中での研修となった。参加者は保育科学生170名余。教師達も仲間に入り、遊び・踊った3時間。その間10分の休憩のみ。これだけの人数を熱狂させ楽しませてくれる力は、やっぱりうわさのカリスマ保育士。爆発する歓声がキャンパス中にこだましたのであろう。大学の事務方も体育館まで足を運んだ。

「たのしいあそび」とは、保育者自身が楽しめてこそ楽しい遊びであるという彼は、遊びの創造者である。彼のことばは魔法かな？彼のオリジナルの歌と遊びに出会うと子どもも大人も一瞬にしてその虜となる。現役保育士、大学の講師、博士課程在学生、講演会・執筆活動そして「ハッピーデイ」取締役代表としていくつもの肩書きを持ち、日本中を飛び回る。このような激務の中で、我が小さな沖縄キリスト教短大保育科に関心を寄せてくださることは光栄である。保育の「プロ」を養成したいというこちらの思いに共感し、理解を示し、すでに3回目の研修を終えた。来校は4回目である。「もうカーナビ無しでも来れます」とさわやかにおっしゃる言葉に、沖縄の保育士の卵たちへの熱いエールが込められている。この出会いは、特に男子学生には勇気と励ましが与えられたと考える。幸いにも今年は、二人の男子学生が菊地先生の保育園ですばらしい実習を体験した。次年度も二人の実習生を引き受けてくださる。ただただ感謝である。子どもの「心の核」を作るのが保育士の仕事とおっしゃる菊地先生に続く保育者が本学から育ってほしいと願う。さあ　保育科生諸君！まあせんせいのエネルギーと末永く触れ合いましょう。

最後に　本当に交通費も差し上げられない中で後輩への暖かなまなざしをむけてくださる「まあせんせい」、「吉澤せんせい」、「大滝せんせい」に心から感謝申し上げます。

「まあせんせい（写真中央）と学生たち」

キャンパスニュース

「“竹”と遊ぶ　親・子のつどい」開催

「野外体験活動を通して保育者の資質向上を図る」の一活動「“竹”と遊ぶ　親・子のつどい」が2005年11月3日、本学中庭で行われました。

山城眞紀子先生（保育科教授）や知念一郎先生（保育科非常勤講師）、本学保育科2年次「レクリエーション実習」受講生による指導のもと、地域の親子や保育関係者約70名が参加。竹でのごはんづくりをはじめ、竹とんぼや四つ竹、竹馬など、かつては生活の身近にあった“竹”を使っていろいろな遊具を作り、手作りの遊具で遊び楽しみました。

子どもを取り巻く環境の変化が指摘され自然体験が望まれる現在、保育者及び指導者の自然体験の実践指導力が求められています。野外体験活動を通して五感による自然理解を深め、安全管理能力など保育者としての資質向上を図ることを目的とし、企画されました。

このような教育研究が評価され、国より私立大学教育研究高度化推進特別補助対象事業として、教育研究経費が一部助成されています。

ホノルル市長杯
全日本青少年英語弁論大会2位

保育科二年次　玉城　亜紀さん

ホノルル市長杯英語弁論大会

玉城亜紀さん2位

語学力の向上と国際親善を深めることを目的に、ホノルル市長杯第三十五回全日本青少年英語弁論大会が二十六日、東京都の九段会館で開かれ、大学の部で沖縄キリスト教短期大学二年の玉城亜紀さん（二）が「勇気ある第一歩」の題目で二位に入賞した。

北海道から沖縄まで予選を勝ち抜いた大学生八人、高校生八人がそれぞれの部で弁論を競い合った。大学の部は一位に東都大学二年の奥野靖典さん、三位に大阪女学院大学二年の中西辰さん。

提供：沖縄タイムス（朝刊）
2005年（平成17年）6月27日（月）

「保育科全卒業生の集い」

「保育科全卒業生の集い」が2005年5月29日（日）本学体育館において行われ、保育科卒業生約120名が一堂に集いました。

また同集いでは、しつけ教育の第一人者・谷田貝公昭先生をお招きし、「しつけと子どもの自立」と題して講演会が開かれ、卒業生と共に在学生約200名も参加しました。

「第41回　キリ学祭」

「辺野古の海を守ろうよ」

「Oh！ Life 美ら島 Forever ココロに植えよう『ｉ』の種」をテーマに、第41回キリ学祭が2005年11月19（土）・20日（日）、本学において開催されました。

テーマに掲げた『ｉ』は、「Ｉ（自分自身）」「Island（沖縄）」「愛情（他人を自分のように大切にする思いやりの心）」を表わしたもの。“自分たちの住む島のライフスタイル（衣・食・住）を改めて見直そう”との思いから、環境問題やNPOとの連携企画など、学生による企画・出店、サークル発表やコンサートなど多彩な催しが行われました。

「Fair Trade（公正貿易）の商品を扱った雑貨Shop」

「ノートテイク講座」開催

2005年６～7月と9月の2回にわたり、本学において「ノートテイク講座」が開かれました（第1回6／22・6／29・7／6・7／13、第2回9／29・9／30）。

講師は沖縄県登録要約筆記者であり沖縄県難聴・中途失聴者協会役員の酒井ひろ子先生。

聴覚障害者に講義の内容を伝えるため、話の内容を要約し書き記す「ノートテイク（要約筆記）」という技術を学ぼうと開催されました。参加者は学生や教職員など、延べ56名。

聴覚障害者の講義保障や通訳者の倫理とルールについて学んだ後、先生の指導のもと実際に要約実習を行ないました。参加者は普段ノートをとる時との違いやそのスピードに戸惑いながらも、ノートテイクのコツをつかもうと熱心に講座を受けていました。

また2006年度前期より、本学の総合教育系科目「要約筆記」（2単位）のクラスとして、開設されることとなりました。

NPO「ONE LOVE」紹介

キリスト教学院にNPO

沖縄キリスト教学院大学と同短期大学ではこのほど、学生や教職員らが環境や貧困の問題に取り組む民間非営利団体（NPO）「ONE LOVE」を発足させた。第一回説明会が七日、同学院で開かれ、学生や教職員ら約五十人が参加した。

同団体は今年五月に設立。小学校での英語授業の支援やビーチの清掃活動、フェアトレード（公正貿易）の促進活動などを展開している。さらに活動の幅を広げ、参加者を増やすために説明会を開いた。

発起人で同大学助教授の新垣誠さんは、団体の方針を学生や教職員が身分に関係なく、それぞれが主張を持って話し合い、主体的に活動することと説明。「生活スタイルを変えるだけでも、世界の抱える問題の解決へつながる。目の前にある自分以外のいろいろなものに関心を持とう」と呼び掛けた。

同団体では今後、日本語と英語で沖縄の戦跡などを案内する「バイリンガル平和ツアーガイド」や学内のごみ分別やリサイクルの徹底化を図る「キャンパス・エコ化計画」などの活動を予定している。

学生と教職員　環境・貧困問題で活動

活動方針について話す新垣さん
＝西原町・沖縄キリスト教学院

提供：沖縄タイムス（朝刊）
2005年（平成17年）10月21日（金）

入試課

「オープンキャンパス」開催

2005年７月９日（土）・９月17日（土）の２回にわたり、オープンキャンパスが実施されました。高校生に大学生活気分を味わってもらおうと、在学生の案内によるキャンパスツアーや様々な体験授業が企画され、約520名が参加しました。

英語系の体験授業では、外国人講師による「Oral Communication」のクラスや、マルチメディアシステムを使った「同時通訳」のクラス、また保育系授業として、実際の授業の雰囲気が楽しめる「造形指導法」や、紙芝居・パネルシアターを紹介した「言葉を育てる児童文化財」など、特色ある講座が多数開かれました。

体験授業の参加者からは「先輩がとても優しく、丁寧にわかりやすくキャンパスツアーをしてくれて、とても嬉しかったです」という感想や、「英語力がつきそうで良いと思った」などの声がよせられました。

体験授業：Oral Communication

キャンパスツアー

キャンパスライフ

１０月入学生紹介

沖縄キリスト教短期大学
英語科　２年次（10月入学生）
宮城　絵梨香

キリ短生になって

2004年10月に入学して、早いものでキリ短での学生生活がもう終わりに近づこうとしています。入学当初は２年という年がとても長く感じられたけれど、今となってはあっという間に過ぎ去っていったような気がします。その間に数えきれないほどの事を学び、いろんな先生たちとの出会いや試験勉強に追われたりなど、忙しい毎日の繰り返しでした。その中でも特に印象深いのは、「インターンシップ」という授業で夏季休暇中の10日間、“米国総領事館”において就業体験をした事です。現場では英語と日本語の両方を使い仕事を行った事で、今後、より一層の英語力を極めたいと思うようになりました。９月卒業まであと半年間残っているけれど、常にキリ短でしか手に入れられないチャンスや可能性を必死に求め、探し、門をたたきながら、多少時間はかかってもあるいは最初に求めていたものと違った形であったとしても、きっと何かと出会えるはず。そう信じてこの残りの学園生活を送りたいと思っています。

留学生紹介

沖縄キリスト教学院大学 人文学部
英語コミュニケーション学科
２年次（インドネシア出身）
Denny Amos Alfert

私は2002年に沖縄キリスト教短期大学英語科に入学しました。卒業後コミュニケーション・スキルズをもっと勉強したいと思い、2005年に沖縄キリスト教学院大学人文学部英語コミュニケーション学科に編入しました。将来は、英語と日本語をいかした仕事をしたいと考えています。

短大に入学した頃、私は日本語や英語があまりしゃべれませんでした。キャンパスには女子学生が多くて友達ができないと思っていましたが、今は友達もたくさん出来、日本語も話せるようになりました。大学にはたくさんイベントがありますが、特にオリエンテーションキャンプは友達を作る良い機会となり、私は短大時代とあわせて３回も参加しました。

また、勉強面では、日本語も英語も両方学べてとても楽しいです。「Paragraph Writing」などの英語関連科目のほかに、「プレゼンテーション概論」という授業では、みんなの前で実際プレゼンテーションを行ったりして楽しく学んでいます。

私は、友達とは日本語で会話し、外国人の先生とは英語で会話をし、授業でも休み時間でも、たくさんの人に積極的に話しかけるようにしています。

宗教部

2005年度　台湾フレンドシップ・キャンプ

☆ スケジュール ☆	
8/18（木）	午前：那覇出発～台北着 午後：台北市内学習会Pt.1 開会礼拝・オリエンテーション
8/19（金）	午前：台北市内学習会Pt.2 午後：花蓮県へ移動（汽車で4時間） 花蓮到着　宿泊（主牧按養中心）
8/20（土）	午前：壽豊部落へ移動 Laiswanoさんほか阿美族お年寄たちとの交流（日本統治時代のお話を聞きました。） 午後：阿美族豊年祭を見学 宿泊：５グループに分かれてホームステイ各家庭で交流と学びの時
8/21（日）	午前：馬太鞍教会日曜礼拝出席・交流 午後：壽豊部落に戻り、交流。沖縄から持っていった食材で沖縄料理を紹介。
8/22（月）	涙、涙の別れの時･･･壽豊部落を出発。 ６時間バスに揺られ台湾を東西に横断、太魯閣渓谷を経て南投県へ移動。
8/23（火）	霧社事件に関する学習(現場跡訪問) 泰雅（タイヤル）族の高徳永さんと交流。
8/24（水）	清流部落訪問。劉忠仁さん、曽春風さんとの交流（霧社事件のお話を伺う）。 台北へ移動（バスで６時間）
8/25（木）	午前：故宮博物院･順益原住民博物館見学 午後：自由行動 夜遅くまで感想＆まとめ会
8/26（金）	午前：台湾基督長老教会総会事務所を訪問。 午後：中正国際空港より沖縄へ 9日間のプログラムを終え、全員元気に帰国！

第７回台湾フレンドシップ・キャンプが2005年8月18日～26日の日程で行われ、「台湾原住民の文化と歴史を学び、分かち合い、最も近い隣人との共生を体験する」ことを目的に、花蓮県（壽豊部落）、南投県（清流・霧社部落）、台北市においてプログラムを実施、学生10名、教職員2名が参加しました。

学生の感想

台湾での大きな出会いは、阿美族のLaiswanoさんとの出会いです。事前学習会のビデオで、５年間戦場に駆り出されたにもかかわらず、戦後日本から謝罪も補償もなく生活していることを知りました。実際にLaiswanoさんと出会って、こんなに小さな体の方が戦争に行き、ジャングルの中で生活していたのだと思うと、胸が一杯になりました。同時に、戦争は人間を人間でなくし、一般の人々が犠牲になるものであり、二度と繰り返してはならないと思いました。

また、このキャンプで初めて“歴史”を身近に感じて、考えるようになりました。霧社事件の背景にはどのようなことがあったのか、皇民化教育を間違った教育だと考える人はいなかったのか、など教科書には書かれていないことにも疑問を持つことの大事さを感じました。そして、このキャンプをきっかけにして、政治や当たり前すぎて何も感じていない平和の尊さについて、自分の考えを持つようになりたいと思いました。

笑いあり、涙あり、勉強ありの台湾の旅はとても充実し、価値あるものとなりました。

短大英語科1年　崎山　麻衣子

就職課

本学のキャリア教育の特色　～“なりたい自分”を見つけよう！～

昨今、ニートやフリーターになる若者が急増していて、大きな社会問題となっています。沖縄県の場合、とくに「若年無業者」の増加による雇用問題は、全国以上に深刻です。

そのような背景にあって、学生の就職活動の実態は、「どのようにして就職内定を勝ち取るか！」というものに主眼が置かれています。書店でも「就職マニュアル本」が数多く見られるようにテクニカル的な部分が主流です。しかしながら、学生のキャリア教育において最も重要なことは、「何のために就職活動をするのか」即ち、「何のために働くのか」「どんな生き方をするのか」という視点で考えることが大切です。本学では、「何のために」という答えを学生自身で見つけられるように、ユニークなキャリア教育を行っています。

【主なキャリアデザイン支援プログラム】

① 秋の進路セミナー　～学生のキャリアデザインを、全学的にバックアップ～

入学時の段階から、学生が自己を見つめ目標を発見できるように、学生・教職員が一体となり、全学的に進路について考えていこうと2002年度から開設されました。

プログラムの内容は、学外著名人による「基調講演」、本学卒業生や各企業、幼稚園や保育園で活躍されている方々による「ＯＢ・ＯＧパネルディスカッション」、「自己の特性・職務適性診断テスト」です。適性テストの結果は、学生個々にフィードバックされ自己の発見や、自己啓発を促す資料となります。さらにアドバイザー教員や学生部職員にもフィードバックされ、学生を指導する際に活用されています。

②「働くことの意味を考えよう！」体験セミナー　～主体性を持って、自分のキャリアを考える～

「働くこととは何か(生きがい)」をテーマに、企業経営者や社会人、幼児教育に携わる方まで、様々な職業の“イキイキと働くオトナたち”に学生たちが直接取材活動を行い、原稿作成から編集作業まで１つの記事が出来上がるまでの作業を体験します。自分の足を使って、いろいろな働くことの価値観など“生の情報”に触発され、学生たちは自分のキャリアについて深く考えるキッカケとなります。学生たちによるインタビューの活動成果をホームページで公開しています。

http://www.ocjc.ac.jp/job/workmean/index.htm

③その他

学生の就職活動をより実践的に支援するため、就職ガイダンスや各種セミナー等も開催しています。

また、学生自らが「何のために働くのか(生きがい)」を追求し、自分らしい生き方を見つけることを目的として、2004年６月に就職研究サークルＤＡＩＡ(ダイヤ)を設立し、「経営者・社会人との交流会」や「ＯＢ・ＯＧインタビュー」などを開催し、その活動成果をホームページで公開しています。

ＤＡＩＡホームページ　http://www.ocjc.ac.jp/daia/

同窓会便り（卒業生紹介）

AM I COSMOPOLITAN YET?

英語科31期卒業生
国吉　真理子

“Cosmopolitan”を私が初めて使ったのは、キリ短1年前期英作文最初の課題「将来の夢」でした。私の題名は“Cosmopolitan”。内容は、英語をマスターしコスモポリタンになりたい、というものでした。深く考えず書いた作文にも拘らず、担当教官であった比嘉健次郎先生には印象深かったようです。キリ短在学中を振り返ってみると、大好きな英語を存分に学べる喜びは感じていたものの、漫然と時間を過ごしていました。その中で、常に私に無言有言のプレッシャーを与えたのが、“Cosmopolitan”であり健次郎先生でした。

キリ短卒業後、米国の大学に編入しました。夢の実現でしたが、現実は厳しいものでした。毎日の宿題に追われ、寝る間もなく勉強したのは、後にも先にも留学時代です。その中において、効率よく作業をこなすことを自然と身につけ、気がつくと割と楽観主義になっていました。

留学後は東京にあるインドネシア共和国大使館で大使秘書として働きました。大使館はまさに異国の地。アメリカにどっぷり浸かっていた当時の私には、そこは今まで知らなかった価値観を知る場所となりました。業務についても、英語および日本語の言葉遣いに始まり、プロトコール、人間関係の構築、簡単な通訳業務など、現在の仕事の基礎はほとんど大使館で培いました。

現在は、子育てをしながら通訳者として仕事をしています。最近は出張にでることも増え、昨年12月にはケニアまで同行する機会をいただきました。その度に、実家の母を呼び寄せての大騒動で皆に不便を強いるのですが、変わらず理解と応援をしてくれる家族のおかげで仕事ができることに感謝しています。

先日、これまでに仕事をした方々の出身国・地域を地図でなぞると、世界一周ができることに気がつきました。「将来の夢」についてはまだ達成途中ですが、多くの人々との出会いを楽しみながら今後とも仕事をしたいと思います。“Cosmopolitan”はこれからも私のテーマになりそうです。

主な経歴・活躍

1991年	インドネシア共和国大使館へ就職　大使秘書として6年間務める。
1996年	法廷通訳登録。（東京地裁）
2000年	出産後、通訳として仕事を再開。展示会、商談、同行通訳。
2001年	WUB世界大会 in 東京で大会事務局として活動。大会は成功裏に終了。以降、WUB東京の会員となり、事務局次長を経て、現在は理事として活動中。
2003年	島嶼サミット（島サミット）にて、外務省の事務局アシスタント。
2004年	Rally JapanでのWRCコーディネーターの通訳。（北海道帯広市開催）
2005年	2004年ノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイさん来日時の同行通訳。

同窓会便り（卒業生紹介）

「日本の大学で得たもの」

保育科40期卒業生
韓　榮芝

夢を追うために、12年前仕事をやめて日本にきました。日本で家族と離れて暮らした街は沖縄をはじめ3都市です。その間の生活ですが、沖縄キリスト教短期大学以外にも沖縄国際大学社会福祉学科で編入生としての勉学や、日本社会事業大学で大学院生として3つの大学を経て、楽しいことや辛いことを味わいました。なかでも保育科で素晴しい学生や先生に恵まれ、各種の免許を取った沖縄キリスト教短期大学で得た人生観は、現在の自分に繋がっていると思います。当時日本語が堪能でない私でしたが、教室に行けば色々なことを教えて貰い、教員の研究室にも気軽に行き、より深い指導や教育を受けたことが印象深く残っています。これらの学習生活を通して、日本の社会及び福祉に関する知識や実践をもっと深めたいという気持ちが沸いてきました。昨年の四月大学院で学位を取った日本社会事業大学の博士後期課程に入学しました。

現在私は、大学院生とは別にもう一つの顔を持っています。それは長崎国際大学社会福祉学科の助手として勤務しています。そこで、私が専攻していた分野を生かして、学生の指導、教育をすることができます。特に、本大学では、中国他、多数の留学生が在学しており、日本語が堪能でない留学生に対しても、より解りやすく、深い指導ができると考えております。これからも、学生達の社会福祉に対する理解をより深く、より正確に述べ伝えるように、教育の内容をよく分析し、教育研究を一生懸命努力していくつもりです。

主な経歴・活躍

経　　歴
1993.10.以前「上海滬江電機廠」医務課の勤務医として勤め、来日のため退社。
2001.2～2002.9　NPO法人ケアセンターやわらぎで非常勤職員として、主に障害者や高齢者の介護、介護保険など福祉事務職員として勤務した。
2003.4～現在　長崎国際大学社会福祉学科実習助手として勤めている。
研究論文及び研究課題
2002年度　中国の都市の高齢化と養老保障問題に関する研究「修士論文」
2004年度　保険・医療・福祉の連携による健康づくりの地域実践 ――在宅介護支援センターにおける介護予防教室の効果―― 「長崎国際大学2005年度紀要」
2005年度現在　（研究中） 中国東南地方の宗族社会の変容と福祉 ――ソーシャルワークの視点から考察する村民自治のあり方――

特色ある教育研究の取組み

私立大学等経常費補助金「私立大学教育研究高度化推進特別補助」
（世界水準の私立大学づくりを目指すという観点から創設された制度）

補助項目		教育研究課題	学科／部署
大学教育高度化推進特別経費	教育・学習方法等改善支援経費	①教育・学習方法等の改善 （大学等における教育・学習方法の改善充実を図るため、カリキュラム改革やファカルティ・ディベロップメントの実施、マルチメディアの活用などの取組みについて、所要経費の１／２以内を補助）	
		コミュニケーション能力向上のための総合的アプローチ	英語科
		野外体験活動を通して保育者の資質向上を図る	保育科
		動植物の飼育栽培・自然界での体験活動を通して「生きる力」を育むための総合的学習	保育科
		高度情報化に対応した図書館サービスの展開	図書館
		包括的なキリスト教人間観と価値観に基づく宗教教育プログラム－建学の精神の具現化に取組む－	宗教部
		新入生オリエンテーションキャンプ	学生課
	国際化教育	②国際化推進 （国際的視野の涵養のための教育研究の取組みについて所要経費の１／２以内を補助）	
		国際平和を創造するための海外の諸大学との学術交流	国際交流室
		異文化理解のための海外研修プログラム	国際交流室
		③外国大学等との学生交流 （外国の大学等との協定等に基づく学生の交流に対し人数に応じ定額補助）	
		海外研修プログラム（ＭＳＵ・ハワイ）	国際交流室

西原町が支援 多機能の同時通訳機器導入

LL教室教育設備のレベルアップを図り多機能を備えた最新のCALLシステム（マルチメディア語学教育支援システム）を南2-5教室に導入しました。導入に際し、西原町から教育設備充実事業補助金1500万円の交付を受けており、西原町と本学のパートナーシップ（地域連携）形成に向けた今後の取組みに期待が寄せられています。

高校生インターンシップ受入

学校と地域社会が連携し、就業体験をとおして将来の生き方や進路・職業意識を深めようと西原高校によるインターンシップが実施されました。実施対象は２年生で、2005年7月13日から15日の三日間、本学でも３名の高校生が職場体験を行いました。配置部署は図書館、情報センター、事務局で各々熱心に仕事の現場を体験しました。（体験の様子は本学ホームページにて掲載）

人事一覧（2005年4月1日～2006年3月31日）

部署長等　（任期2005年4月1日～2007年3月31日）

宗教部長	金　永秀
教務部長	大城　宜武
学生部長	野崎　茂
図書館長	山城眞紀子
英語コミュニケーション学科長	仲地　弘善
英語科長	城間　仙子
保育科長	大山　伸子
総合教育系主任	上原　明子
国際交流室長	新垣　誠

＜人文学部英語コミュニケーション学科＞

● 4月1日付

異　動	山里　恵子	教　授	（英語科）
	野崎　茂	〃	（　〃　）
	村田　典枝	助教授	（　〃　）
	新垣　誠	〃	（総合教育系）
採　用	Daniel S. Broudy	助教授	

● 10月1日付

採　用	高崎　正名	教授	

＜短期大学＞

● 4月1日付

昇　任	照屋　建太	保育科講師
採　用	作田真由子	英語科教授
	大城　実	総合教育系特任教授
	渡久地政順	〃　〃

● 3月31日付

定年退職	島袋　忠雄	英語科教授

＜事務職員＞　（2005年9月1日付）

課長代行	與那原　馨	情報センター課長代行
	金城　雄彦	就職課長代行
異　動	松田　道子	就職課主任（総務企画課主任）
	渡慶次智子	入試課主任（昇任　入試課書記）
	城間　勉	学生課主任（昇任　図書課書記）
	玉寄　勝也	入試課（学生課国際交流室）
	真栄田美奈	総務企画課（教務課）

＜役員一覧＞　（2005年10月15日就任）

● 理事

理事長	大城進一		
常務理事	仲門勇市		
理　事	神山繁實	R.H. Thrasher	前里光信
	新川武雄	名嘉隆一	大城実
	山里勝一	下地玄毅	

● 監事　大城宜太郎　幸地啓子

● 評議員

神山繁實	R.H. Thrasher	大城宜武	上原明子
津波古きくえ	西銘純子	知花眞康	前里光信
知花節子	平良秀子	豊見永清美	国吉守
金城重明	折田政博	知念光弘	阿嘉幸男
伊波健二	呉屋定子	渡久地政順	渡真利文三
新川武雄	赤嶺秀政		

訃報　学校法人沖縄キリスト教学院第2代理事長大森泰夫先生が、病気療養中のところ、2006年1月25日ご逝去され、告別式が1月29日本学チャペルで執り行われました。
謹んで哀悼の意を表します。

寄付感謝報告

＊寄付へのご協力ありがとうございました。ここに感謝をもってご報告させていただきます。
寄付指定（2005年２月１日～12月31日迄）
個人（166件／￥6,560,000）　団体（27件／￥10,422,500）　合計　193件／￥16,982,500

四年制大学

父母	9	220,000
同窓/在学生	2	645,000
一般	1	20,000
団体	2	6,010,000
宗教	1	200,000
宗教団体	4	35,000
学校関係者	17	220,000
教職員	48	488,000

施設設備資金

父母	13	325,000
同窓/在学生	2	1,180,000
宗教	2	220,000
宗教団体	1	57,500
学校関係者	3	42,000
教職員	34	284,000
その他	1	10,000

五十周年記念事業資金

教職員	1	30,000

奨学金

同窓/在学生	1	50,000
企業	3	600,000
団体	2	1,090,000
宗教	1	100,000
学校関係者	1	1,500,000
教職員	20	2,146,000

その他

団体	1	400,000
教職員	12	210,000

高校生英語弁論

企業	8	170,000
教職員	1	30,000

学生会活動援助費

後援会	1	400,000
同窓会	1	300,000

2004年度決算報告

2004年４月１日から
2005年３月31日まで

資金収支計算書

（単位：円）

資金支出の部		資金収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費支出	564,060,352	学生納付金収入	670,327,500
教育研究経費支出	172,706,634	手数料収入	22,446,000
管理経費支出	34,996,596	寄付金収入	16,363,141
借入金等利息支出	11,170,655	補助金収入	153,231,591
借入金等返済支出	65,250,000	資産運用収入	4,273,859
施設関係支出	2,809,701	事業収入	3,282,250
設備関係支出	37,035,546	雑収入	57,819,444
資産運用支出	31,003,609	借入金等収入	800,000
その他の支出	9,035,221	前受金収入	353,957,900
予備費		その他の収入	121,022,401
資金支出調整勘定	△ 66,622,690	資金収入調整勘定	△ 402,110,897
次年度繰越支払資金	705,545,155	前年度繰越支払資金	565,577,590
支出の部合計	1,566,990,779	収入の部合計	1,566,990,779

貸借対照表

（単位：円）

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	3,081,322,609	固定負債	276,557,865
(1)有形固定資産	2,711,686,679	流動負債	486,402,950
(2)その他の固定資産	369,635,930	負債の部合計	762,960,815
流動資産	778,259,563	第１号　基本金	3,314,463,203
		第２号　基本金	23,919,179
		第３号　基本金	29,000,000
		第４号　基本金	67,000,000
		基本金の部合計	3,434,382,382
		翌年度繰越消費支出超過額	△ 337,761,025
資産の部合計	3,859,582,172	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	3,859,582,172

消費収支計算書

（単位：円）

消費支出の部		消費収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費	570,504,313	学生納付金	670,327,500
教育研究経費	235,597,107	手数料	22,446,000
管理経費	40,818,378	寄付金	17,593,690
借入金等利息	11,170,655	補助金	153,231,591
資産処分差額	46,980	資産運用収入	4,273,859
予備費		事業収入	3,282,250
消費支出の部合計	858,137,433	雑収入	57,819,444
当年度消費収入超過額	3,230,514	帰属収入合計	928,974,334
前年度繰越消費支出超過額	340,991,539	基本金組入額	△ 67,606,387
翌年度繰越消費支出超過額	337,761,025	消費収入の部合計	861,367,947

2004年度決算について報告いたします。

計算書類は、文部省令「学校法人会計基準」に基づいて作成されており、資金収支計算書は、当該会計年度の研究及びその他諸活動に使用したすべての資金収支の内容等を明らかにしたものです。

消費収支計算書は、当該会計年度の消費収支内容及び均衡の状態を示し、学校法人の経営状態を明らかにしたものです。

貸借対照表は、当該会計年度決算時点における財政状態を明らかにしたものです。